

2012/10/28

新居浜

山根

銅山越→東平→鹿森ダム

馬の背・泉屋道を下る

端出場

鹿森ダム

東平・銅山越 通過志登山口

東平歴史資料館

東平駐車場

第三通洞

新太平坑口

ヒュッテ

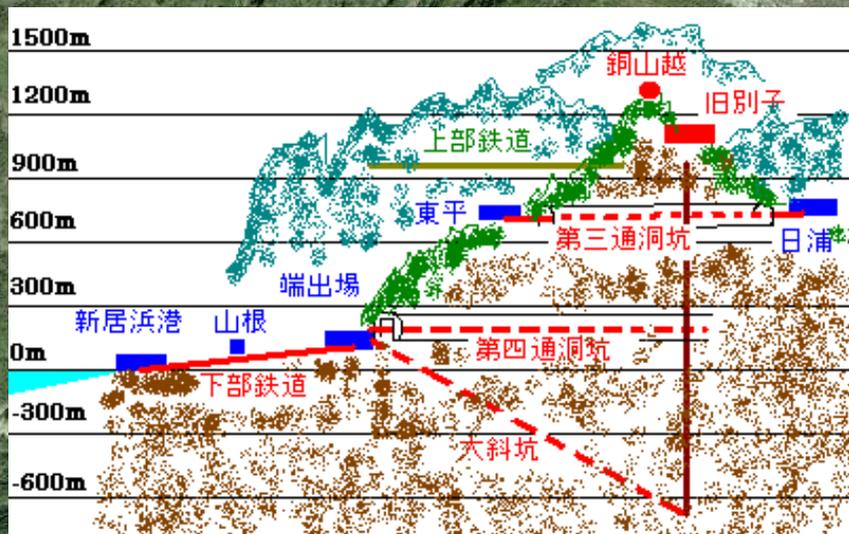
笹ヶ峰分岐

銅山越

大山積神社跡

裏門

ダイヤモンド水



日浦銅山越登山口

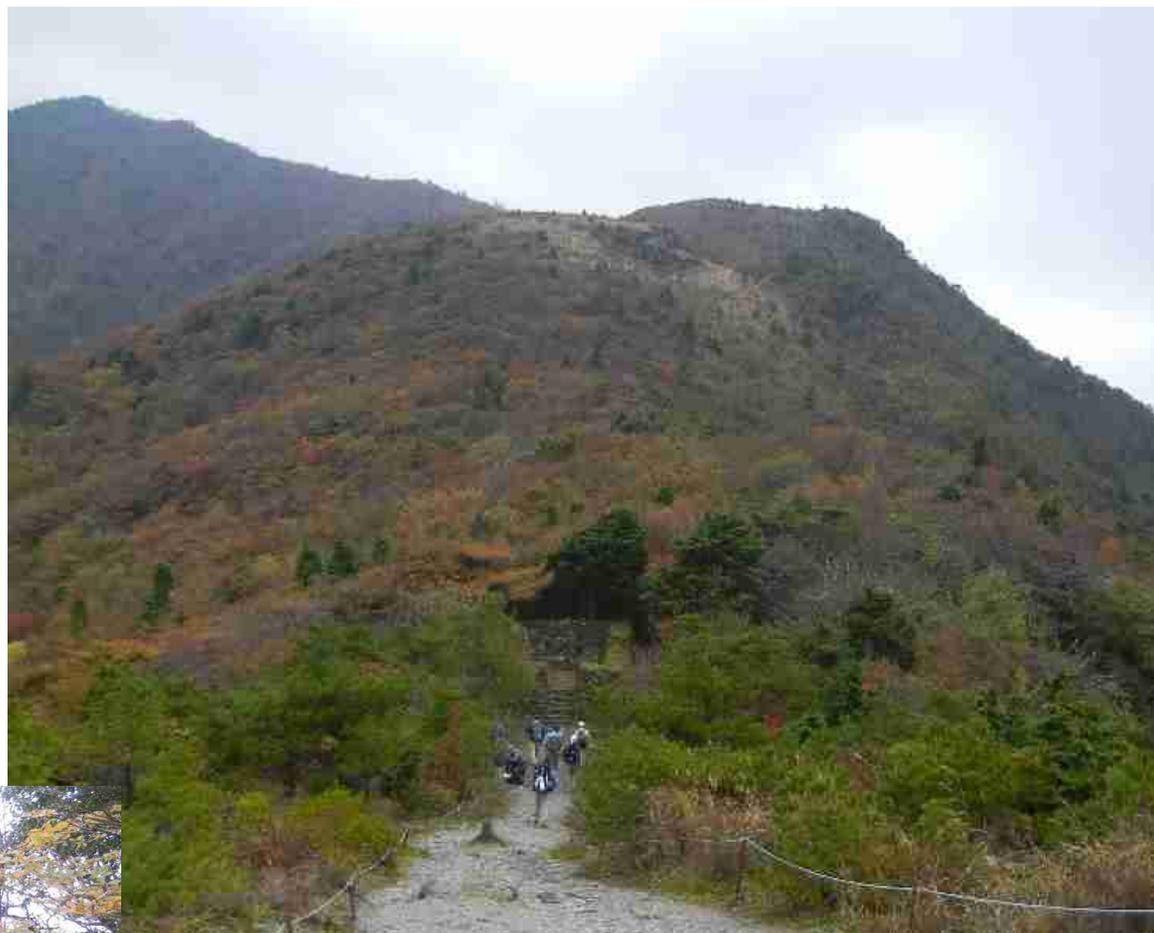
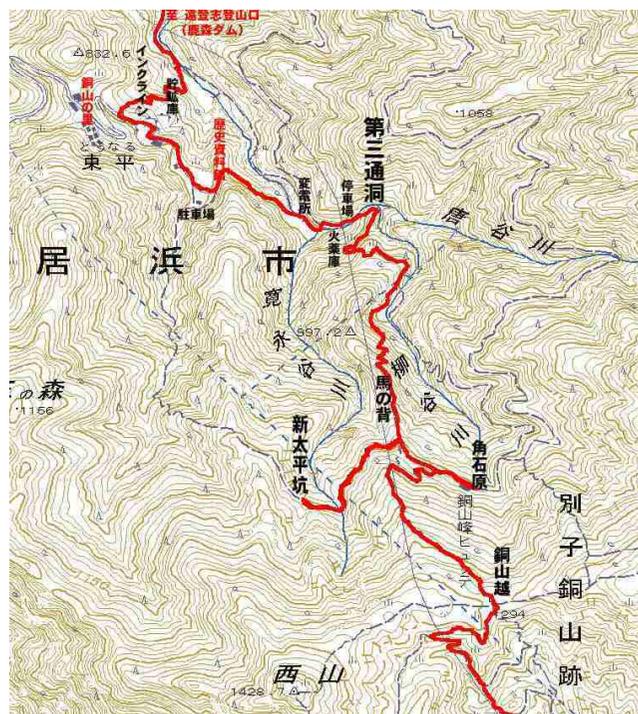
2 Cnes/Spot Image
Image © 2012 DigitalGlobe

Google earth

銅山越→東平→鹿森ダム

馬の背・泉屋道を下る





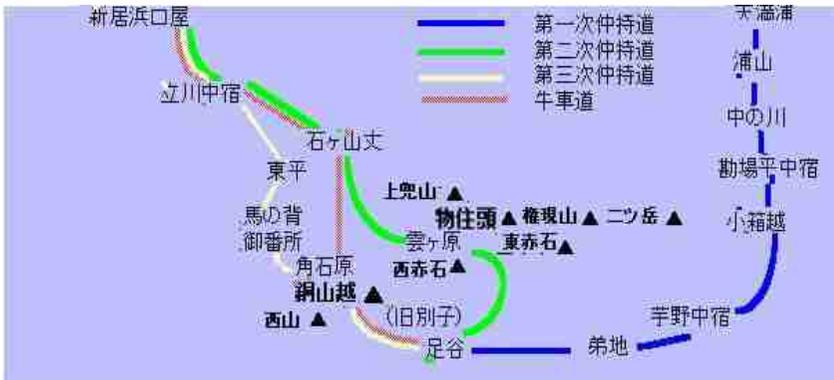
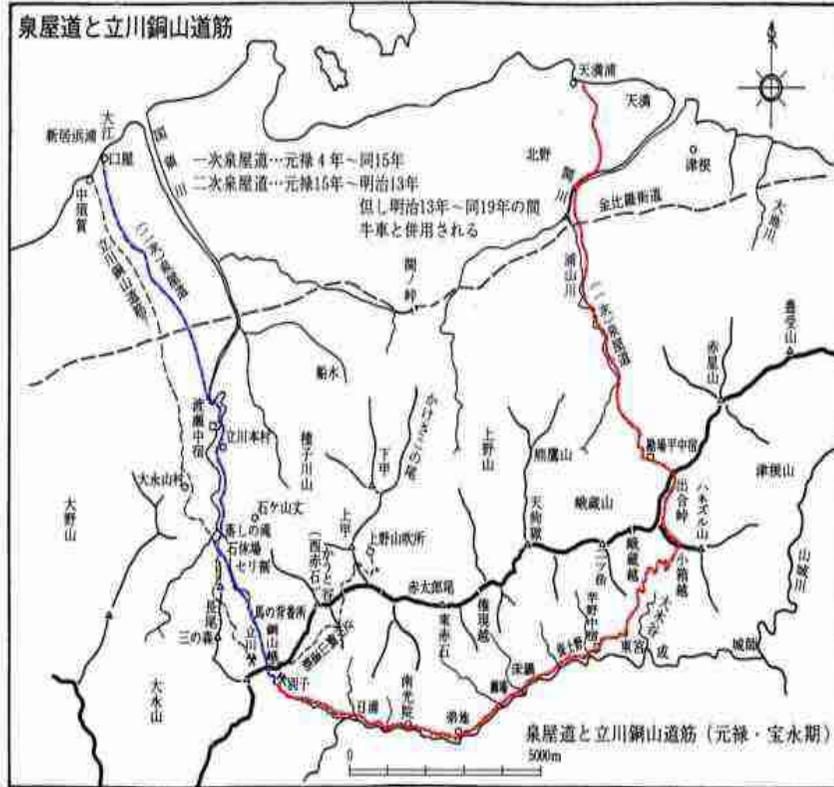
銅山越から東平へ馬の背を下る 2012.10.27.

銅山越から東平へ下るには1.東側の牛車道 2.まっすぐ峠を越えて角石原から馬の背を降る泉屋道 3. 角石原から西側の太平坑から山腹を下る道がある。
今回は馬の背をまっすぐ降る泉屋道をとりましたが、ほかの道と違って急な降り道が馬の背を降ってゆく。
短距離ですが、よくこの道を銅を担いで降りたものだ。
でも 谷に取り囲まれた急斜面の山の山腹に忽然とあらわれた「東平」の姿が遠望され、とても印象的な姿でした。

別子銅山 銅の輸送路 銅の道

泉屋道(仲持道)・牛車道・鉄道・索道

<http://h2o.sakura.ne.jp/bessi/Qbessi/00data/miti/miti.html> & <http://www2.dokidoki.ne.jp/tomura/cutrans.htm> より



- 上部鉄道 角石原-石ヶ山丈 明治44年(1911) 10月7日 廃止
- 下部鉄道 惣開-一端出場 昭和52年(1977) 2月1日 廃止

(泉屋道)一次泉屋道

別子銅山が開坑されたのは元禄四年のことで、それより50年も前の寛永年間より銅山峯の北側の西条藩に属する立川銅山が盛んに採鉱されていた。

別子銅山は幕領に属しており、両銅山の間柄は必ずしも円満ではなく、最短距離の銅山越で運べなかったため、別子の銅は立川銅山域を通らず、宇摩郡の地域内から赤石連山の東側の小箱峠越で運ばれていた。

(新居浜側へ直接出る道 二次泉屋道 & 三次泉屋道)

住友の長年にわたる幕府への嘆願と立川銅山の経営不振により 立川銅山が住友の請負銅山となり、やっと元禄年間に西赤石山越そして銅山越の道が開かれた

二次泉屋道 元禄15年(1702)~寛延2年(1749)
足谷・東延-西赤石南側-雲ヶ原-西赤石と上兜山の間
-石ヶ山丈-立川中宿=新居浜口屋

三次仲持道 寛延2(1749)年~明治13年(1880)
足谷-銅山越-角石原-馬の背-御番所-東平-端出場
-立川中宿=新居浜口屋

(牛車道)

牛車道 明治13年(1880)~明治26年(1893)
足谷山-銅山越-角石原-石ヶ山丈-立川中宿=新居浜口屋

(第一通洞→上部鉄道~索道~下部鉄道)

◆ 明治26年(1893)~明治38年(1905)
足谷山-第一通洞-角石原-石ヶ山丈-打除=惣開精錬所
馬車 牛引鉱車 上部鉄道 索道 下部鉄道

◆ 明治38年(1905)~明治44年(1911)
足谷山-第一通洞-角石原-石ヶ山丈-打除=惣開=四坂島
馬車 牛引鉱車 上部鉄道 索道 下部鉄道 海上輸送

明治44年 第三通洞が日浦-東平全通し、鉄道と索道による新輸送へ)



銅山越から馬の背へまっすぐ北へ下る泉屋道 2012.10.27.





ここにもかつて集落があったのだろう 傍らに墓地がありました



紅葉した林の中の下り道 銅山峰ヒュッテの標識を見つけ、角石原から馬の背へ



銅山越の北側 角石原 銅山峰ヒュッテ 2012.10.27.

森の中を降って ちょっと降り過ぎかと気になりだした頃 林の向こうに明るく開けた広場があり、小さな小屋が見える。銅山峰の尾根をくり貫いた第一通洞が通じると、運び出された鉱石がここから上部鉄道で石ヶ山丈へとおろされた。

ヒュッテのすぐそばに停車場跡があり、このままヒュッテの前を通り抜けると西赤石山・銅山越からの道と合流して東平への牛車道。

また、もと来た道を引き返すと太平坑から東平へのトラバース道と馬の背を降って東平へ行く道。角石原は銅山越北側 銅山交通の結節点。

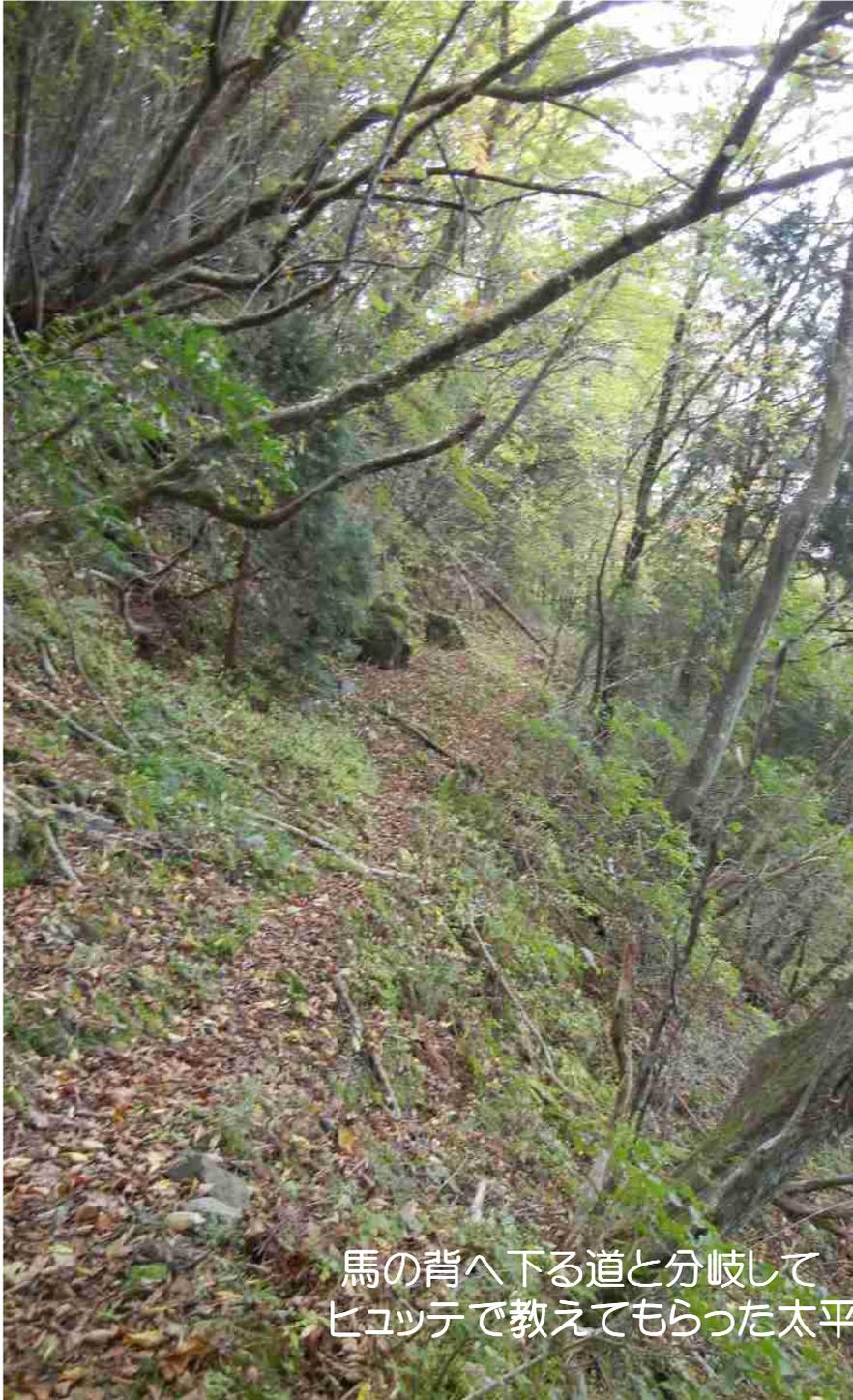


銅山越の北側 角石原 銅山峰ヒュッテ 2012.10.27.



銅山越の北側 角石原 上部鉄道停車場跡
銅山峰ヒュッテのすぐ横の広場 2012.10.27.





馬の背へ下る道と分岐して そのまま山腹を西へ 2012.7.27.
ヒュッテで教えてもらった太平坑・新太平坑へのトラバース道に行く



太平坑 坑口跡 2012.10.27.



ブッシュの中の踏み跡を芯太平坑へ 2012.10.27.

このブッシュの中で 向こうから来る人に出会いました
新太平坑の坑口判りにくいと親切におしえてもらいました
おたがい同好の志 ものづきやなあ..と笑って分れました





谷を渡り口 目印に棒を置いといたと教えてもらった新太平坑への道



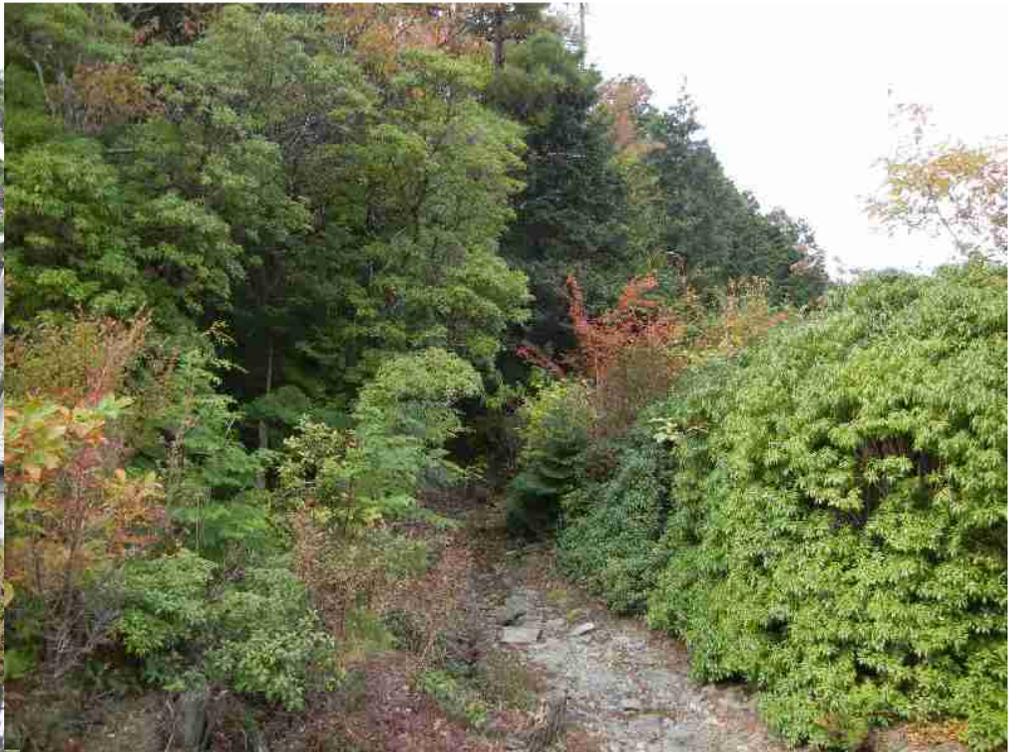






新太平坑 坑口 2012.10.27.

ここからさらに奥へ 東平への山腹を巻く道が伸びていましたが、様子
がわからず。また 泉屋道・馬の背を下りたくて 分岐まで戻りました



馬の背を降る泉屋道との分岐まで戻って そこから馬の背を降る 2012.10.27.





森の中 きつい勾配の馬の背を降る途中 右手に山の中に 忽然と視界の仲に東平があらわれました

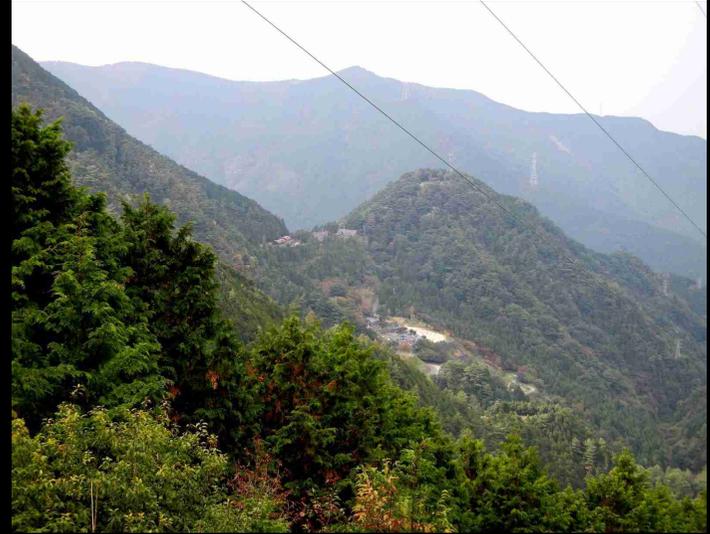


東洋のマチュピチュと呼ばれる旧別子銅山 東平 2012.10.27.
周囲と全く隔絶した山の中 どうして下と繋がっていたのかかっていたのか……



東洋のマチュピチュと呼ばれる旧別子銅山 東平

2012.10.27.



急な山腹斜面の上 周囲を山に囲まれて、別子銅山の新居浜側の拠点として「東平」の街が建設された

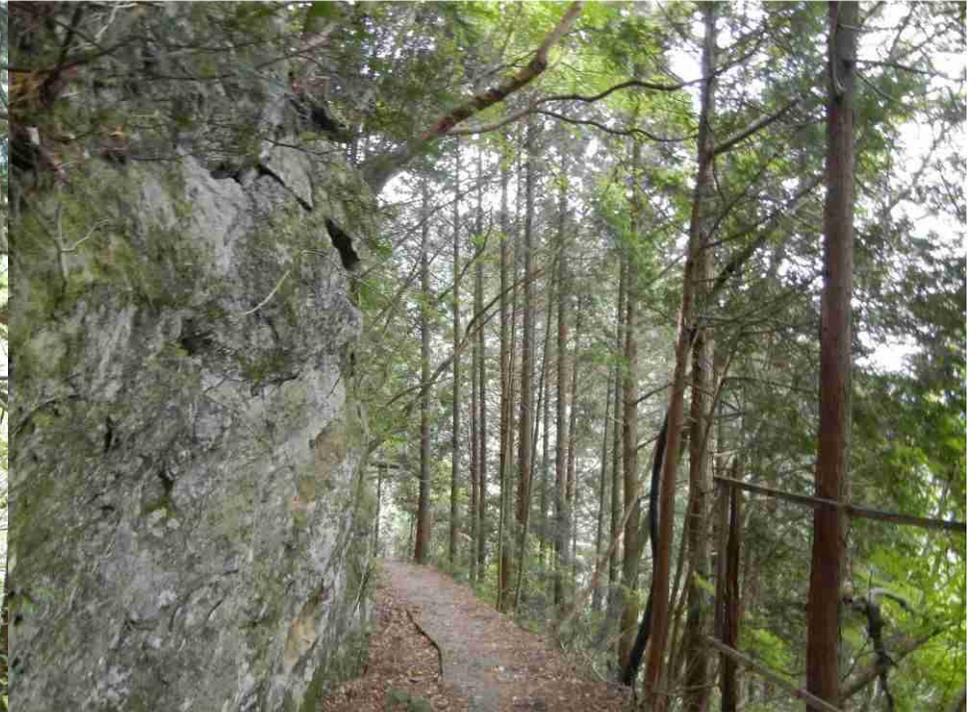
周囲と全く隔絶した山の中 「東平」の街があった 今 東洋のマチュピチュと呼ばれる



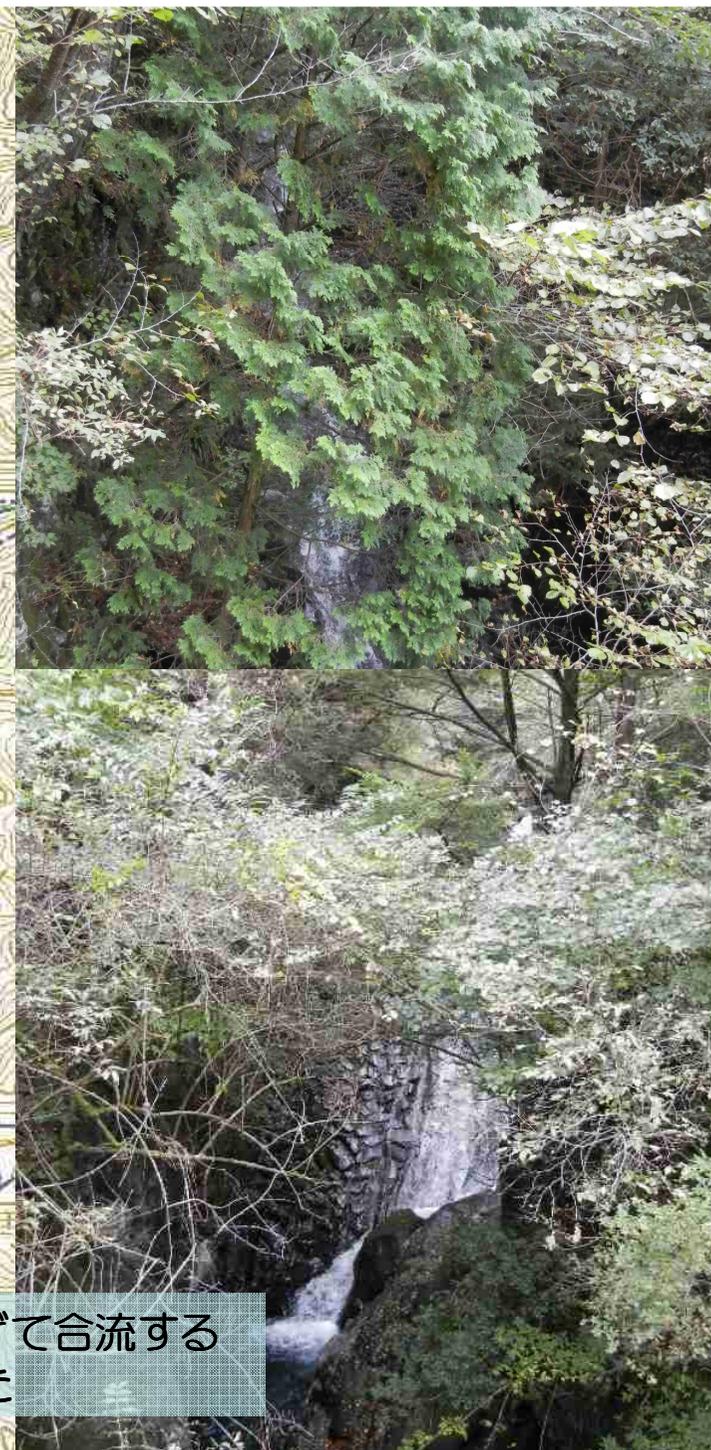




西側の谷筋の道と出会うと馬の背の急な道も終わり、谷に沿う平坦な石畳道 東平らも近い



馬の背の急な道も終わり、「東平」へ 谷に沿う平坦な石畳道 2012.7.27.



狭い谷を急な谷川 唐谷川・柳谷川が水しぶきを上げて合流する
このすぐ横に第三通洞の入口がありました

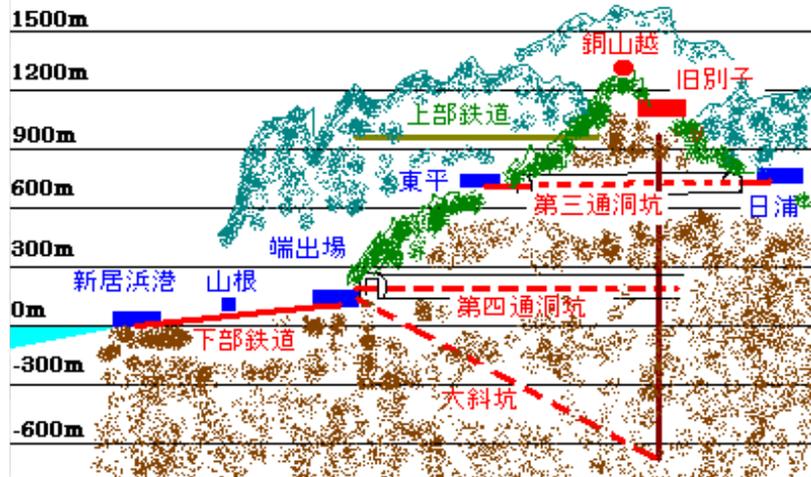




第三通洞入口 2012.10.27.

第三通洞 (標高744m)

第三通洞は東延斜坑の下底部にあった三角という別子鉱床の富鉱部を狙って明治27年（1894）に開削に着手した多目的坑道である。同35年に完成したことにより、坑内水の排出と通気問題が一举に解決し、出鉱量も飛躍的に増加していった。更に、明治44年に別子山側に日浦通洞が貫けたことにより、東平と別子山日浦が全長3,990mのトンネルで結ばれ、別子鉱山の北と南を結ぶ動脈となった。更に鉱山では籠電車という鳥籠の様な人車を連結して一般にも開放したので、利用者が多くて特別に人車を増結することもあった。昭和48年、その籠電車も別子鉱山の終掘と同時に廃止された。



第三通洞入口 2012.10.27.



第三通洞 (標高744m)

第三通洞は東延斜坑の下底部にあった三角という別子鉱床の富鉱部を狙って明治27年（1894）に開削に着手した多目的坑道である。同35年に完成したことにより、坑内水の排出と通気問題が一举に解決し、出鉱量も飛躍的に増加していった。更に、明治44年に別子山側に日浦通洞が貫けたことにより、東平と別子山日浦が全長3,990mのトンネルで結ばれ、別子鉱山の北と南を結ぶ動脈となった。更に鉱山では籠電車という鳥籠の様な人車を連結して一般にも開放したので、利用者が多くて特別に人車を増結することもあった。昭和48年、その籠電車も別子鉱山の終掘と同時に廃止された。

第三通銅 明治35年完成

明治44年別子山側に日浦通洞がぬけ、東平と日浦がトンネルで結ばれ、別子鉱山の大動脈となった。

また、かご電車と呼ばれる鳥かご電車を連結して一般にも開放。昭和48年閉山廃止まで多くの人をも運び続けた。



第三通洞のかご電車停車場

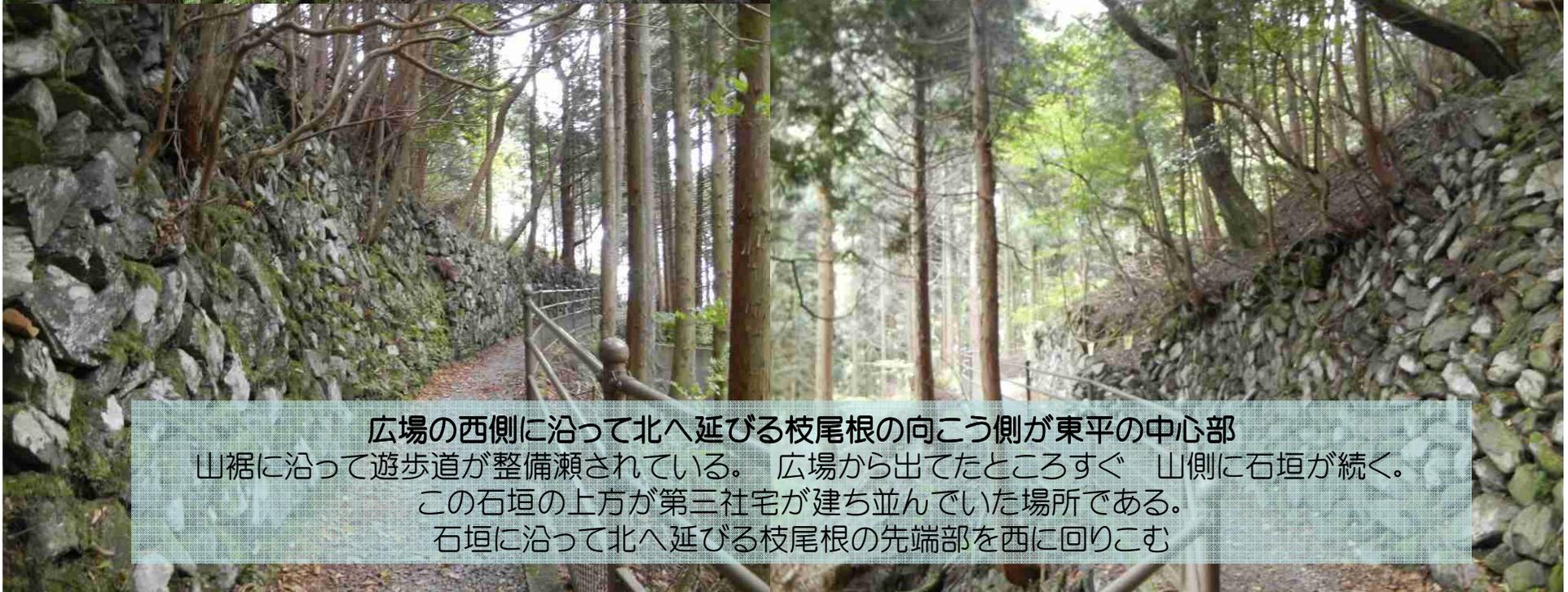
第三通洞のすぐ横が広場になっていて、川はトンネルで広場下を抜け、その北側山際の斜面上に停車場がありました。また、反対の南側の山際に火薬庫がありました



広場の南側から北側を眺めると坂の上に駐車場が見える



火藥庫



広場の西側に沿って北へ延びる枝尾根の向こう側が東平の中心部
山裾に沿って遊歩道が整備されている。広場から出てたところすぐ 山側に石垣が続く。
この石垣の上方が第三社宅が建ち並んでいた場所である。
石垣に沿って北へ延びる枝尾根の先端部を西に回りこむ



第三社宅の石垣を過ぎて
右側の尾根筋の先端を回りこむ坂道を降りて行く
いよいよ東平の中心部である 2012.10.27.





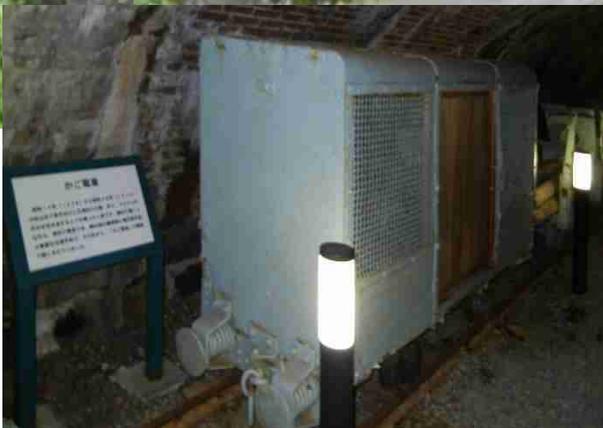
枝尾根の先端部にある駐車場に数多くの車が止まっている



東平からながめる真っ赤な西赤石山の稜線 2012.10.27.

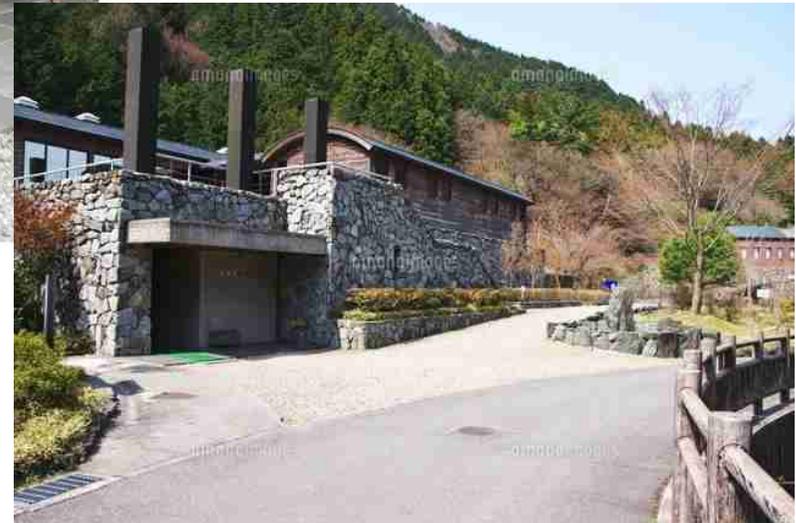
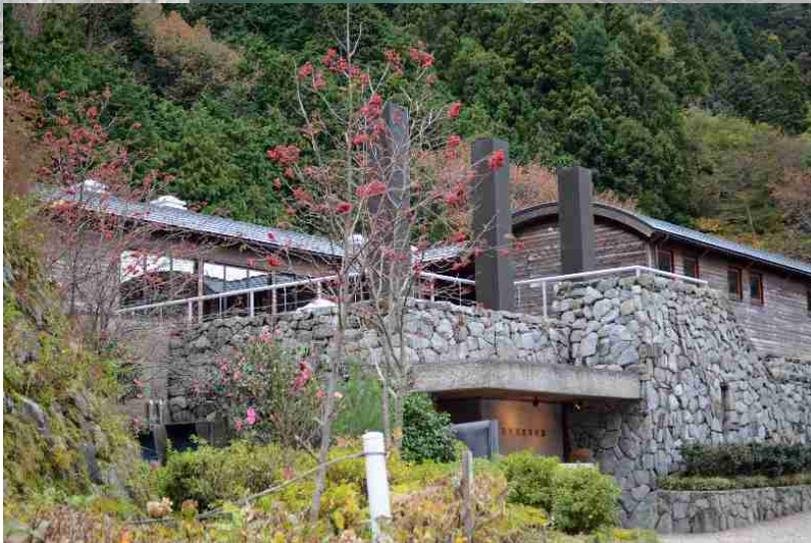
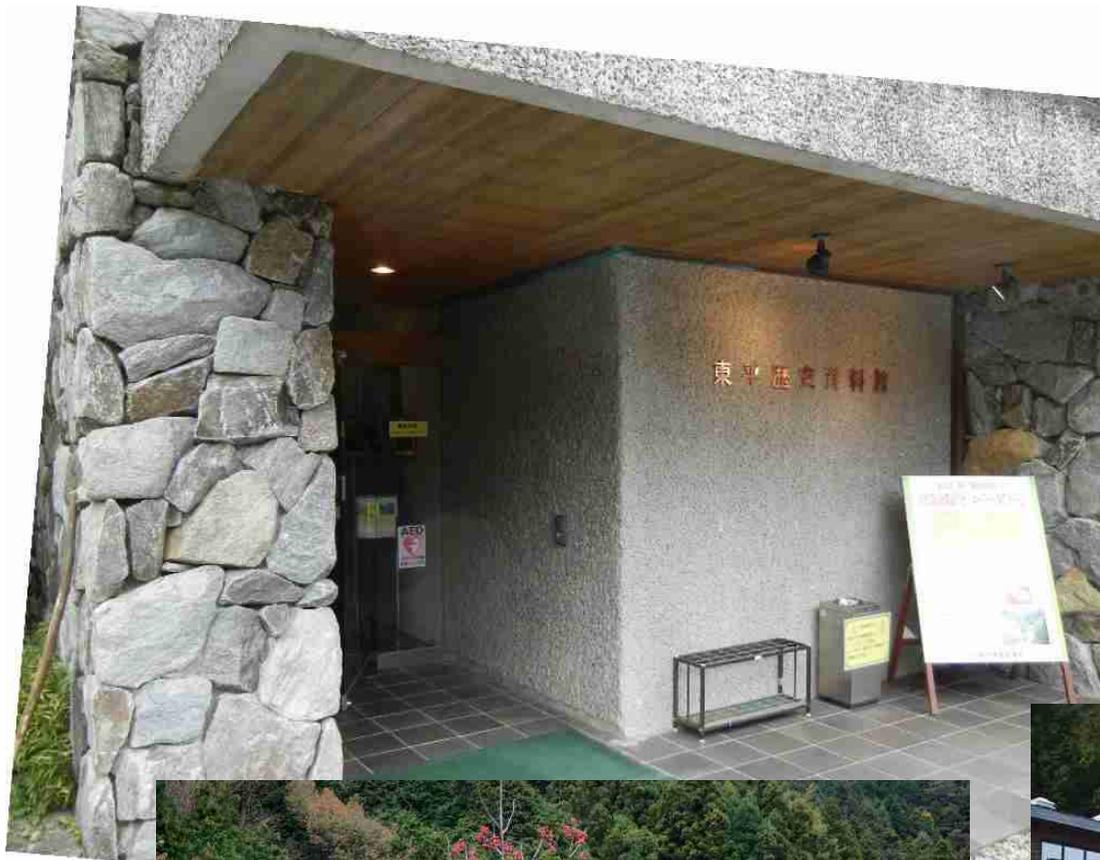


枝尾根の先端部 トンネルに銅山の運送に使われた電車が展示されていました



トンネルの中に展示されていた
かご電車

このトンネルの向こうは東平歴史記念館など東平の中心部



東平歴史記念館 インターネットより写真採取



東平の中心部 インターネットから採取

東平駐車場 新居浜からここまでドライブウェイが繋がっている
ただし、鹿森ダムの南 河又で 県道47号からこの東平へ入る道
は狭く車の行き違いの問題など交通制限されている(私道???)



広場西側マイン工房から西赤石山・銅山越の稜線を眺める
この広場の崖下に貯鉱庫やインクラインなど別子銅山の産業遺産が残っている



東平歴史博物館横から西側駐車場



マイン工房



駐車場の北西 マイン工房から銅山越の稜線を眺める
2012.7.27.

インクライン跡

生活用品や資材を引き揚げたり
降ろしたりするためインクライン
(傾斜面にレールを敷いてトロッコ
を走らせるケーブルカーの一種)を
建設しました。
このインクラインが、220段の
長大な階段に生まれ変わりました





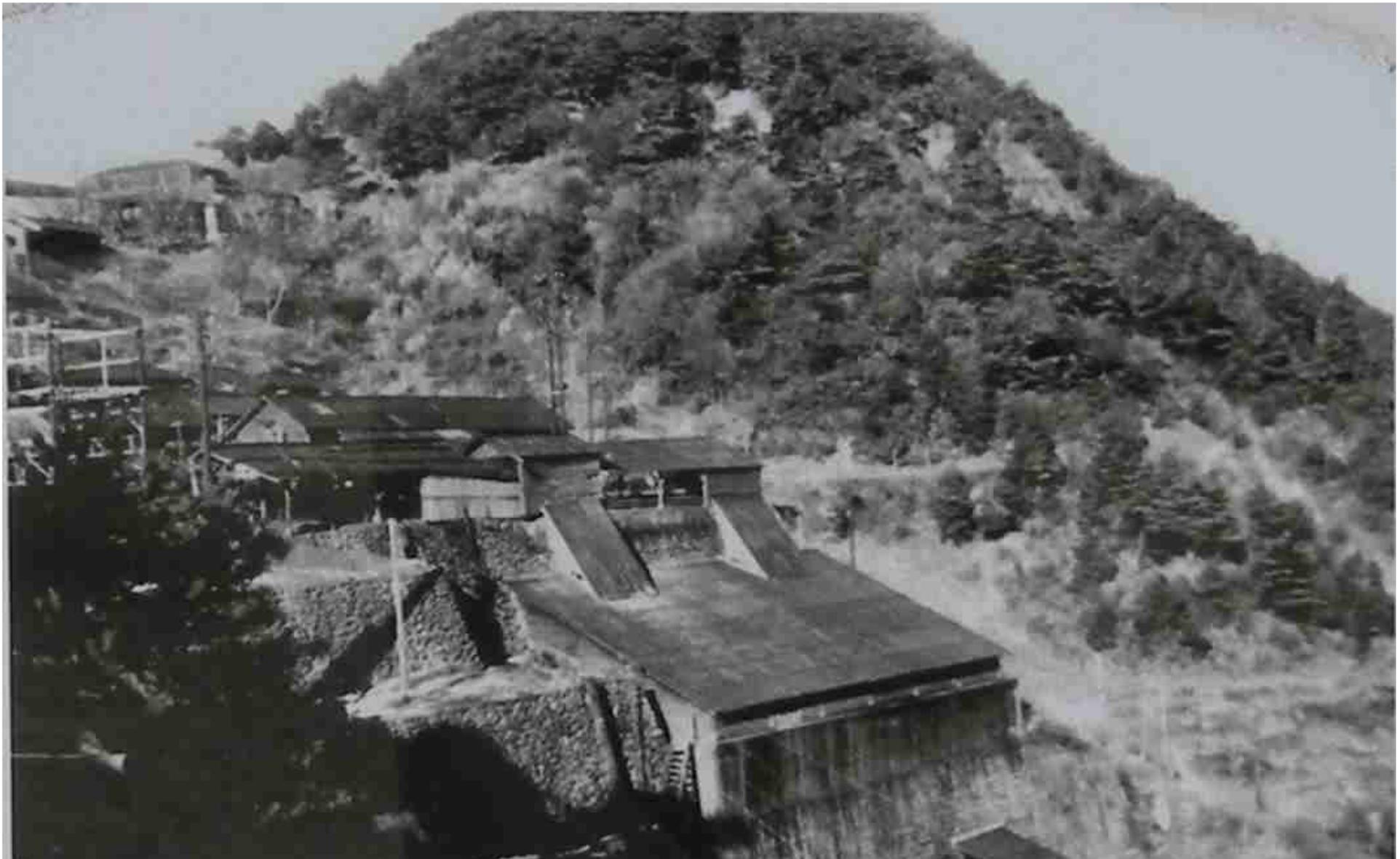


東第三通洞で運ばれた鉱石を端出場へ降ろす索道停車場跡 2012.10.27.

この上方に第三通洞により運ばれた鉱石貯蔵庫がある



第三通洞で運ばれた鉱石を端出場へ降ろす索道停車場跡 2012.10.27



昭和30年頃の貯鉱庫（別子銅山記念館蔵）

東平貯鉱庫跡

明治35年（1902）に第三通洞が貫通し、明治38年（1905）に東平の中央に新選鉱場が、東平～黒石駅間に索道が、新選鉱場から第三通洞を経て東延斜坑底に連絡する電気鉄道がそれぞれ完成した。大正5年（1916）には、採鉱本部が東延から東平（第三地区）に移転して、東平が採鉱拠点となる。

第三通洞から搬出された鉱石は、大マンブ、福井橋、小マンブを通過して終点の新選鉱場に運ばれた。鉱石と岩石とに選別された鉱石は貯鉱庫に貯められ、順次索道で黒石駅へ下ろされた。後には距離を短縮して黒石駅から端出場へと変更して下ろされ、四阪島製錬所に運ばれた。



第三通洞で運ばれた鉱石の貯蔵庫 東平貯鉱庫跡(上)から端出場への索道停車場跡(下)を眺める 2012.10.27.



東平貯鉱庫跡 第三通洞で運ばれた鉱石の貯蔵庫跡

2012.10.27.



第三通洞で運ばれた鉱石の貯蔵庫 東平貯鉱庫跡(上・下)から端出場への索道停車場跡(中)を眺める 2012.10.27.





貯鉱庫・索道駐車場の崖の下には採掘集落が復元されていました



東平より銅山越の山並 峠は右手の山で隠れている 2012.10.27.

東平より銅山越の山並

峠は右手の山で覆れている 2012.10.27.

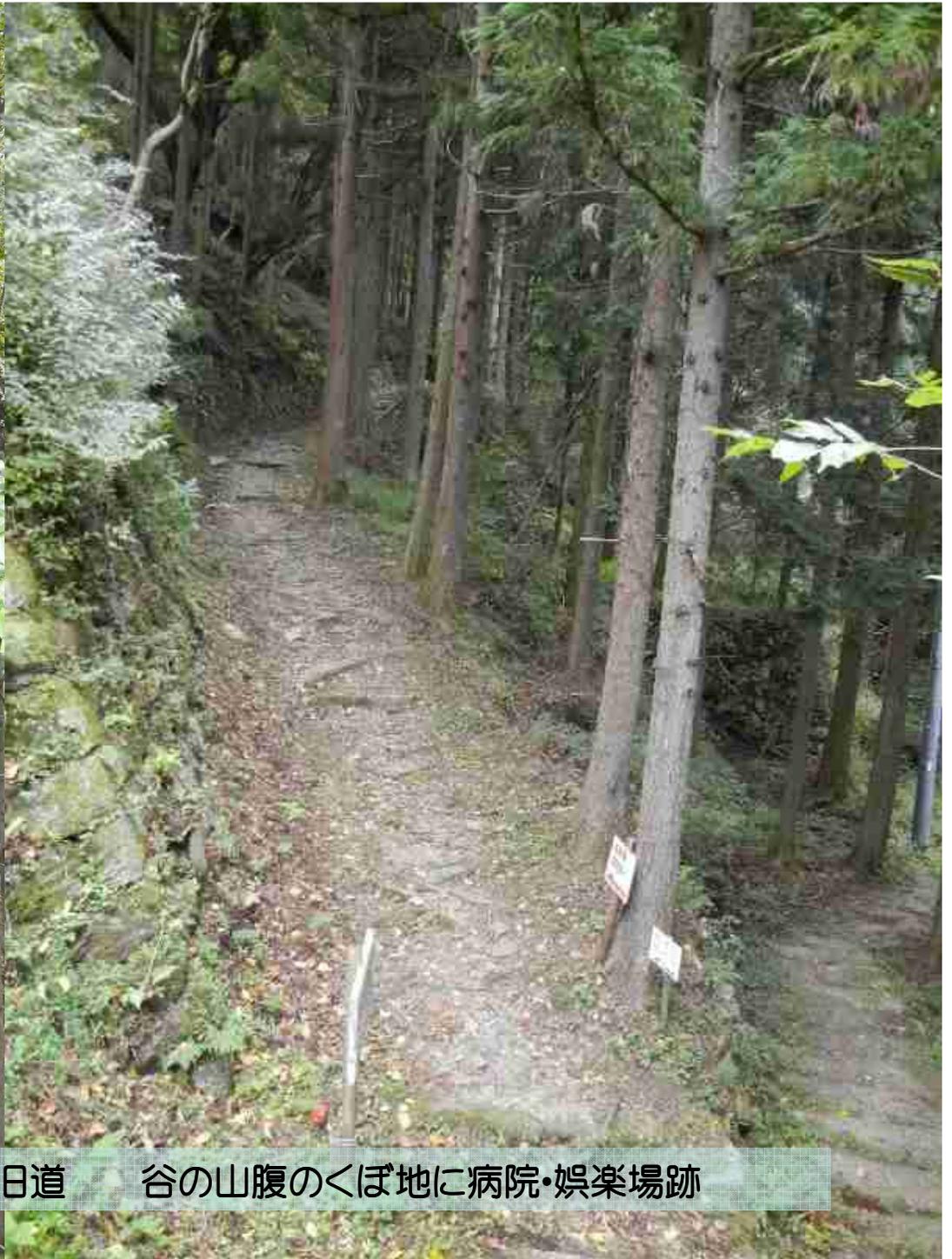
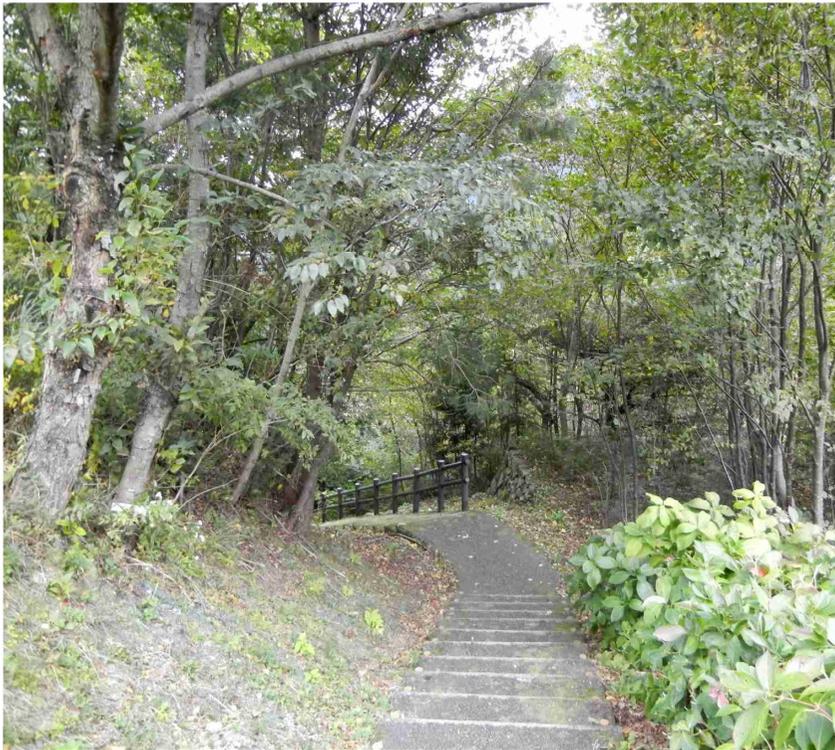
かつて 別子銅山では 銅山越を挟んで 北の日浦と南の東平とが通洞で結ばれ、トロッコ軌道が開通していたといひ、銅山越をすることなく、別子山村からは、このトロッコ電車を使って、新居浜へ出かけた時代があったといふ。

「銅山越の登山も東平から銅山越して日浦に下り、帰りはトロッコ電車で東平に抜けたものだ」と日浦の集落で聞きました。



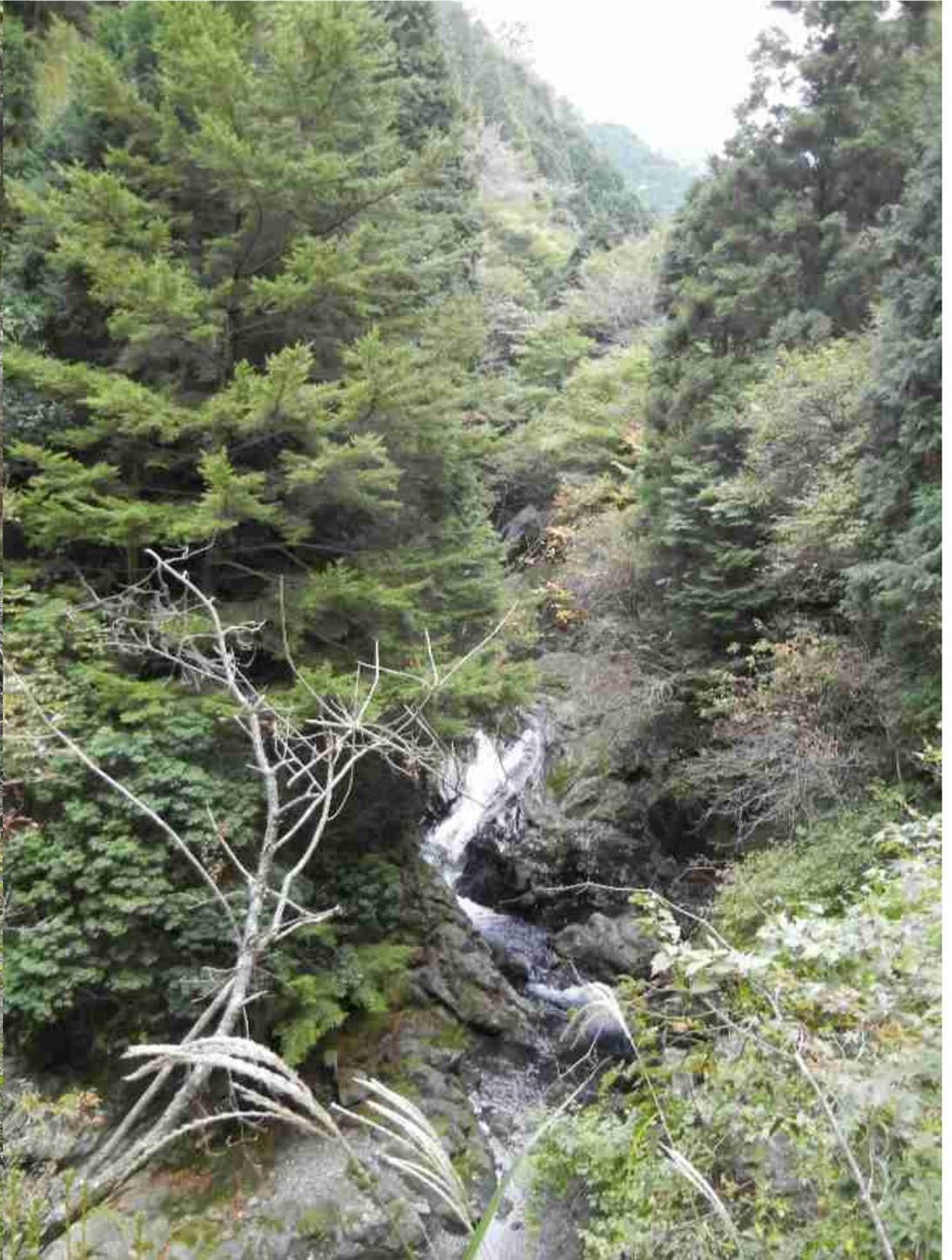
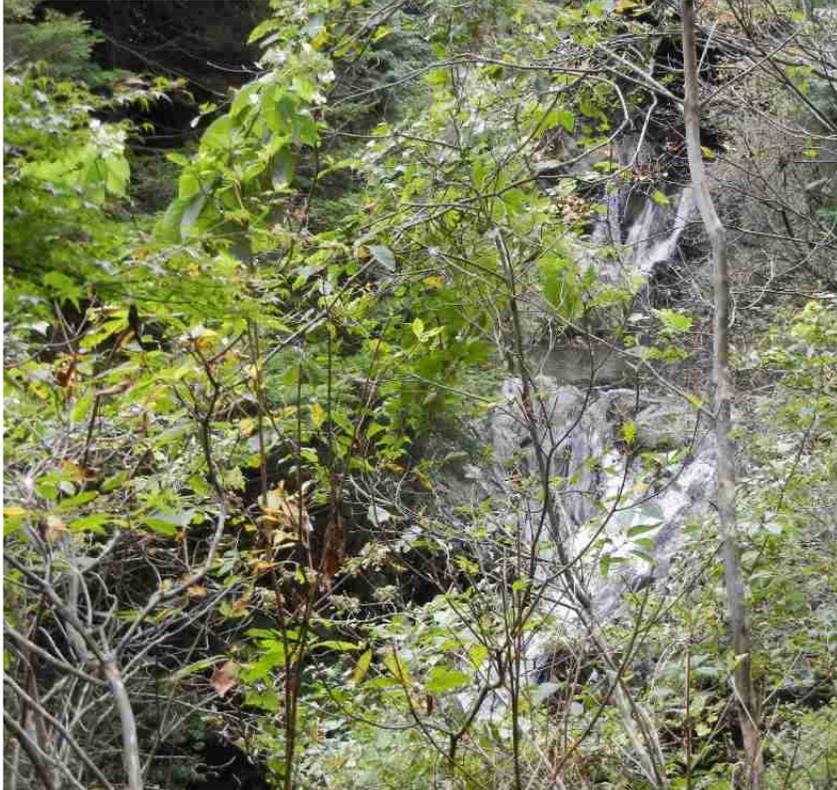


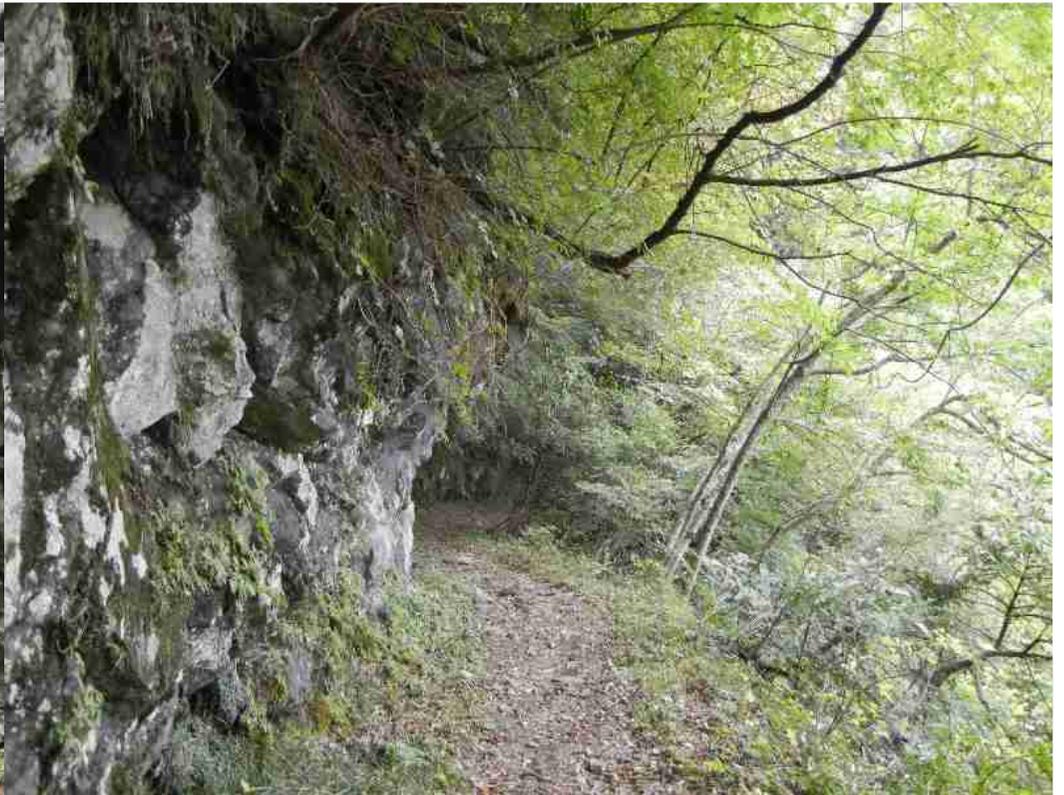
朝 新居浜駅で迎えに来てもらう約束をしていたのですが、またまたソフトバンクの携帯が繋がらない。何度もトライするがだめ。
マイントピア別子のマイクロバスは団体専用で乗せられぬという。あきらめて谷沿いの旧道を約1.5時間ダムサイトの県道まで歩く。



東平から鹿森ダムへの旧道

谷の山腹のくぼ地に病院・娯楽場跡





崖際を延々と続くきつい降り道 旧道とはいえ かつての東平と新居浜をつなぐ生活道路であった







木々の間からダムの湖面が見え出すとまもなく県道にでる やれやれである



東平から1.5時間弱で新居浜側 銅山越 遠登志登山口に下山

朝10時 別子山村側登山口日浦を出発して午後4時15分新居浜側遠登志登山口に下山
たっぷり1日がかりの銅山越でした



朝 地域バスで日浦へ向かった県道 2012.10.27.
連続するトンネルで別子山を越えて別子山村へと伸びている



鹿森ダム直下のループ橋
青龍橋 2012.10.27.



鹿森ダム直下のすぐ下は
傾斜が急なため、
道はループ橋で下ってゆく







谷の崖を登る野猿

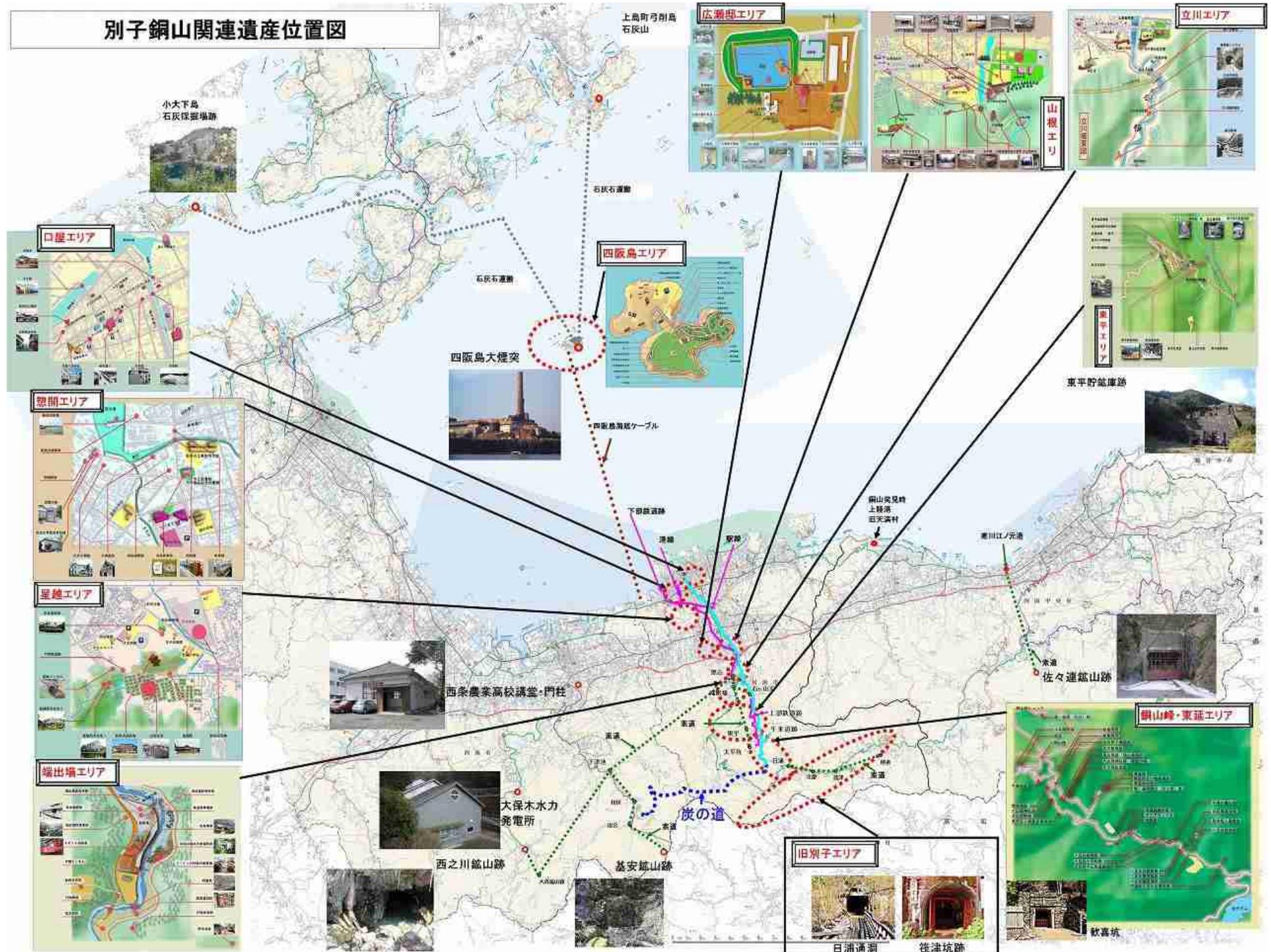


やっと携帯が通じて タクシーに迎えに来てもらえる
待つ間 ふっと崖を見ると渡りのサルが崖をよじ登っていました
15分ほど待て タクシーが現われ、新居浜駅へ やれやれです



新居浜駅に着いた時はもう夕暮れ
駅の向こうに銅山越の山々がシルエットで眺められました
念願の銅山越 満足感一杯の一日でした 2012.10.27.

別子銅山関連遺産位置図





銅山越直下より 銅山越の小足谷の谷筋 すぐ下に 開坑以来の墓所 蘭塔婆山の遺構が見える
かつて この谷筋には別子銅山の諸施設・街が建ち並んでいた



東洋のマチュピチュと呼ばれる旧別子銅山 東平 2012.10.27.
周囲と全く隔絶した山の中 どうして下と繋がっていたのかかっていたのか……

旧別子銅山の産業遺産が眠る別子山 この別子山 山越の銅の道 「銅山越」

新居浜

紅葉した別子山 念願の銅山越・銅の道を歩きました

2012.10.27.

おわり

山根

端出場

東平

立川

旧別子銅山城

銅山越

別子

旧別子山村

【 参考 】 Country Walk・風来坊

四国北岸を東西に貫く大断層「中央構造線」Walk 赤石山系 別子銅山の山郷 別子山村 2005年11月

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/walk/4walk10.pdf>

Image © 2012 GooEye

Google earth